



JACET通信

大学英語教育学会

September 2001

The Japan Association of College English Teachers

No.129

【巻頭言】

セミナーの楽しみ

豊田昌倫 関西支部長（関西外国語大学）

JACET という語は何を連想させるだろうか。2年前の夏、早稲田大学で行われたAILAの世界大会を思い起こす方があるかもしれないし、あるいは、現在所属して熱心に活動中の研究グループを連想されるかもしれない。年配の会員にとっては、八王子の大学セミナーハウスでの「夏のセミナー」ではないだろうか。私の場合はまさしく後者であり、八王子セミナーはJACETの原点そのものである。

私は夏のセミナーに2回参加させていただいた。はるか昔の話であるが、招聘講師がOwen Thomas 教授の年および Randolph Quirk と C.H. Prator 教授の年である。7月中旬から約2週間、英米からの講師とともに過ごす共同生活の日々は今なお忘れがたい。現在とは異なり、ほぼ30年前の当時では外国からの学者の訪日は機会が少なく、このJACETセミナーを目指して全国各地から多くの会員が野猿峠に参集した。講義と実習、自由時間でのテニスや夕方から深夜にかけての歓談など、駆け出しの英語教師であった私

は教わることのみ多く、胸ふくらむ思いであった。初めてお会いした小川芳雄先生と親しく故郷の話をさせていただいたり、優れた知友を得られたのは、かけがえのない貴重な体験であった。はからずも2年前に関西支部のお世話を申しつかったとき、若い会員のために「琵琶湖セミナー」が実現できれば、と希望を述べたことがある。琵琶湖セミナーは会場の関係で「京都セミナー」と名称を変えざるをえなかったが、これまで文法と辞書に関する2回のセミナーおよび英語音声学のワークショップを、JACET関西支部の主催で国立京都国際会館において開催することができた。海外からは Ronald Carter, Geoffrey N. Leech, J.C.Wells 教授などを直接お招きして、積年の夢が叶ったのはありがたいことである。

学会の年次大会に出席すれば、研究発表の合間に知友と旧交を暖めることができる。昔話に花が咲くこともある。たしかに一年に一度、仲間と出会えるのはかけがえのない時間ではある。ただ、どの学会においても暗黙の

うちに長幼の序があり、若い会員は先輩会員との挨拶に忙しく、何度も頭を下げながら会場に向かうのがふつうではないだろうか。

これに対して、「セミナー」の参加者はおたがいに初対面の方が少なくない。京都セミナーの参加者は60ないし80名。参加者の地域は関東から九州に及び、会員以外の参加者もあるところから、おそらく半数以上の方が初めて顔を合やすことになる。年齢や学会組織とは無関係に、研究発表やシンポジウムそのものに専心できるのは、爽やかで心地よい。昨年開催した「英語音声学ワークショップ」では、大正生まれのベテラン教授と学部学生が机を並べてペアワークを行う姿があった。これこそワークショップやセミナーの本領ではないだろうか。

京都セミナーでは八王子の伝統を受けついで、日本人の方にも講演・発表は英語でお願いしている。昨年の英語辞書に関するセミナーでは、異色の講師としてNHKテレビ「ニュース10」のキャスター、榎原美樹氏に講演をお願いした。「銃弾が飛び交うような現場の放送記者には、辞書を引くような時間はありませんよ」と辞退されかけたのを、「辞書がなくても第一線の記者が十分務まるというお話しで結構ですから」と苦しい説得をして、京都までご足労をお願いした。ヨーロッパと中近東での記者生活、それにクリントン大統領へのインタビューなどエピソードを交えての美しいデリバリーはさすがであり、「ニュース10」はJACET会員から新しいファンを獲得したとも聞いている。

裏話をもうひとつ。昭和女子大学の池上嘉彦教授には、文法と辞書のセミナーで2回にわたって講演をしていただいた。明快かつ論理的な先生の英語によるご講演は定評があるが、先生がその直前まで別室にこもって周到な準備をされるのを目のあたりにして、頭の下がる思いであった。セミナーの参加者には大学院学生の比率がきわめて高い。若い参加者は常に全力投球をされる先生から多大の刺激を受けたことであろう。

本年の11月17日(土)、18日(日)の両

日、「The Language of Literature」と題する「京都セミナー2001」を開催する。招聘講師は初来日の Mick Short 教授(英国ランカスター大学)で会場は国立京都国際会館。秋の深まる洛北の地にお出かけくだされば幸いである。

事務局より

代表幹事 小林 ひろみ

1) 2001年度第40回JACET全国大会が札幌の藤女子大学で開催され、無事終了いたしました。今回はニューヨークにおけるテロ事件のため、招待講演者のキャロル・シャペル氏とイボンヌ・エベル氏が来日できなくなるという予想外の事態が発生しました。しかし、栗原豪彦大会委員長、西堀ゆり大会実行委員長をはじめとする全国大会委員会の委員の先生方の臨機応変の処置、RELCを代表して参加されたグローリア・ペジヨスターモ氏やイギリスのレディング大学のガイ・クック氏等のご助力により、参加者への影響を最小限に食い止めることができ、参加者も1000名を超えた模様です。大会の詳しい報告は大会特集号に掲載いたします。

2) 大会初日の14日に開催されたJACET総会において、小池生夫会長および田辺洋二副会長の辞任が承認され、新会長に田辺洋二理事、新副会長に鈴木博理事が選出されました。

その他の人事異動等は、同じく大会特集号に掲載される総会の議事録をごらんください。

3) 例年通り、日本学会事務センターを通じてJACETの紀要がフランクフルトのブック・フェアに出展されます。出展後はハノーバー大学に寄付される予定です。またJACET紀要34号は9月末頃に完成・発送の予定です。

4) 英語教育については様々な動きが見られますが、JACET ではスーパー・イングリッシュ・ハイスクール等の文部科学省のプロジェクトに対して、全面的な協力をするために新たな委員会を結成する方向で検討を進めています。

事務局人事異動

桑田志瑞子さんの後任として入った岡留奈子さんは、エディンバラに行くことが突然決まったため、残念ながら9月末に退職となりました。現在、後任を募集中です。

支部便り

<北海道支部>

1. JACET 北海道支部第16回大会(総会)

日時：6月16日(土) 13:00-13:30

場所：藤女子大

議題：前年度行事活動及び会計報告、監査報告、本年度行事予定及び予算審議、運営委員の退任及び新任北海道支部の全国大会開催年ということもあり、変則的に総会のみのも大会となった。支部会計監査として丸田謙二郎先生(小樽短大)が新しく就任された。

2. 研究会の開催

1) 第1回研究会

日時：6月16日(土) 13:30-15:00

場所：藤女子大

シンポジウム：

テーマ「21世紀の英語教育とJACETの役割」

司会 栗原豪彦(北海道大)

講師 高井 収(小樽商科大)、横山吉樹(北海道教育大岩見沢校)、町田佳世子(北海道東海大)

3月のJACET全国理事会において、大学英語教育をめぐる内外の情勢変化とそれに伴って転換を迫られるJACETのあり方について

議論がなされたのを受けて、本シンポジウムが企画され、講師および会場の会員による活発な討論が行われた。

2) 第2回研究会

日時：8月15日(水) 13:00-17:00

場所：北海道大学留学生センター

講演：Rebecca L. Oxford(メリーランド大)
Research on Language Learning Strategies: Crucial Concepts, Methods, and Findings

テーブルディスカッション：

学習スタイルとストラテジー

司会 伊東祐郎(東京外国語大)

言語習得理論とストラテジー

司会 大場浩正(北海道医療大)

動機づけとストラテジー

司会 萬 美保(香港大)

自律学習と教師の役割

司会 河合 靖(北海道大)

学習者の背景文化とストラテジー

司会 英保すずな(北海道大)

北海道大言語文化部、留学生センター、国際広報メディア研究科、及び北海道英語教育学会と共催で、Language Learning Strategiesについての講演とテーブルディスカッションが行われた。お盆にも関わらず多数の参加者を得て、盛会のうちに終了した。

3) 第3回研究会

日時：9月15日(土) 15:00-18:00

場所：放送大学北海道学習センター

講演：Guy Cook(レディング大)

The philosopher pulled the lower jaw of the hen. ELTEcS(エルテックス)、ブリティッシュ・カウンシル、及び北海道英語教育学会と共催で、Language Playについての講演とワークショップが行われた。Cook先生の巧みな話術に引き込まれ参加者一同時間を忘れるほど、意義深い会が催された。

(河合 靖・北海道大)

＜東北支部＞

1. 月例会

1) 4月例会(研究発表)

日時: 4月14日(土) 14:00-15:00

場所: 東北学院大土樋キャンパス

発表者: 高橋 潔(宮城教育大)

演題: 「 「よろしく(お願いします)」とその対応英語表現-Wierzbicka 意味論からみる語彙と文化-」

2) 8月例会(講演会)

8月6日に秋田大で開催予定だった Thiraboon Somboontakerng 教授(チュラロンコン大、タイ)の講演会は、講演者の都合で中止となった。

3) 11月例会予定(研究発表)

日時: 11月10日(土) 14:00-16:00

場所: 東北学院大土樋キャンパス

発表者・演題:

伊関敏之(鶴岡工業高専)「Non-Native Speakersのイントネーション」

松井秀親(米沢女子短大)「パラグラフ・ライティングと学生のディスコース」

4) 12月例会予定(研究発表とシンポジウム)

日時: 12月8日(土) 14:00-19:00

場所: 東北学院大土樋キャンパス

研究発表1件

シンポジウム「早期英語教育の問題と展望」

司会・講師 石浜博之(聖霊女子短大) 他講師2名

2. 支部大会

日時: 6月9日(土) 14:00-17:30

場所: 東北学院大土樋キャンパス

支部総会では2000年度決算案、2001年度予算案、2001年度活動計画が承認された。今年度の支部大会は語彙指導を中心テーマとして行われ、下記の2つの講演とシンポジウムにおいて指導と学習の両面から語彙習得の諸問題が深く議論された。本大会には支部会

員、学生のみならず多くの聴衆が集まり、支部活動を広く知ってもらうよい機会となった。

講演:

岡 秀夫(東京大教授・本部副代表幹事)「語彙指導のパラドックス」

大杉正明(清泉女子大教授)「英語学習と語彙」シンポジウム「これからの語彙指導」:

司会: 高梨庸雄(弘前大・東北支部支部長)

講師: 高梨庸雄(弘前大)「語彙指導の枠組み」: 高田 諭(東北学院大)「英語語彙の文化的負荷の指導について」

: 武田 淳(宮城工業高専)「ネットワークを利用した語彙指導」

: 吉川 亨((株)アルク教育社)「CALL教材における語彙トレーニング」

事務局移転

千葉元信東北支部幹事(宮城工業高専)が在外研修で渡英するため、東北支部の事務局が8月より以下に移転した:

〒980-8511 仙台市青葉区土樋 1-3-1

東北学院大学英文学科

村野井 仁研究室

電話 022-721-3204

E-mail: muranoih@tscc.tohoku-gakuin.ac.jp
(村野井 仁・東北学院大)

＜中部支部＞

1. 第5回中部支部役員会

日時: 2001年2月10日(土) 14:00-16:00

場所: 名古屋女子大学

報告事項: 1 本部報告

2 講演会について

3 誤文研究会解散の申し出

協議事項:

1 2001年度中部支部大会について

2 ニュースレターの編集と発行

3 全国大会小講演者推薦

4 その他

2. 第6回中部支部役員会

日時: 2001年3月16日(金)

13:30-15:00

場 所 : 中部大学技術文化専門学校

報告事項:

- 1 財務担当理事からの支部費に関する質問事項
- 2 支部評議員の盛田義彦氏(愛知県立大学)辞任の承認
- 3 その他

協議事項:

- 1 春季理事会での JACET 活性化に関する提案
- 2 2001 年度予算、活動中間報告
- 3 2000 年度の予算案、活動計画案
- 4 2001 年度全国大会司会の依頼
- 5 ニュースレター
- 6 研究会発足の問い合わせ

3. 第7回中部支部役員会

日 時 : 2001 年 4 月 14 日(土)

14:00-15:00

場 所 : 名古屋女子大学

報告事項: 1 春季全国理事会報告
2 評議員(小野経男氏)辞任の件

協議事項: 1 JACET 賞委員会
2 40 周年記念誌出版委員会
3 本部役員支部の大会派遣について
4 ニュースレター

4. 第8回中部支部役員会

日 時 : 2001 年 4 月 28 日(土) 14:00-17:00

場 所 : 名古屋女子大学

報告事項: 1 JACET 賞委員会の任期について

協議事項: 1 JACET 賞委員会の委員選考に関して
2 40 周年記念誌出版委員に吉川寛氏
3 その他

5. 第9回中部支部役員会

日 時 : 2001 年 8 月 10 日(金) 13:00-15:00

場 所 : 名古屋女子大学

報告事項: 1 本部報告

2 支部大会報告

協議事項: 1 本名信行氏、Wardhaugh 氏の講演会
2 JACET の改革について
3 活動予定

6. 2001 年度支部大会運営委員会

1) 第1回運営委員会

日時: 2001 年 3 月 16 日(土)

場所: 中部大学技術文化専門学校

協議事項: 1 基調講演者の確認と演題
2 シンポジウムのテーマ、司会、パネリストについて

2) 第2回運営委員会

日時: 2001 年 4 月 14 日(土)

場所: 名古屋女子大学

協議事項: 1 基調講演の演題決定
2 シンポジウムのテーマ決定
3 研究発表
4 研究発表司会
5 広報

3) 第3回運営委員会

日時: 2001 年 4 月 28 日(土)

場所: 名古屋市立大学

協議事項: 1 支部大会プログラム
2 出店等

7. 2001 年度 中部支部大会

日時: 2001 年 6 月 10 日(土)

場所: 名古屋市立大学山の畑キャンパス人文社会学部

大会テーマ: 「21 世紀初頭の英語教師に与えられた課題」

開会行事: 司会 津田早苗(東海学園大)

挨拶 JACET 中部支部長 山中秀三(名古屋女子大) 大会運営委員長 宮田学(名古屋市立大)

特別講演: 「21 世紀初頭の英語教師に与えられた課題」森住衛(桜美林大)

シンポジウム: 「21 世紀初頭における英語教

師への課題」司会 吉川寛 (中京大)
パネリスト: 松本青也 (愛知淑徳大)
塩沢正 (中部大) 古谷千里 (青山学院総合研
究所) 吉川寛 (中京大)
研究発表は3室において、それぞれ3件の発
表があった。

評議員会: 司会 丹下省呉 (名古屋外国語大)
支部総会: 司会 清水克正 (名古屋学院大)
内容: 本部報告、活動報告、会計報告、予算
案、役員人事、その他

講演会

日 時: 2001年3月16日(金) 15:00-17:00
場 所: 中部大学技術文化専門学校
講 師: 鈴木 博 氏 (中部大)
演 題: 英語教育工学の旅路ー「カムカム英
語」からインターネットまで
ニューズレター: No. 6 発行
(後藤 いく子・東海女子短大)

<関西支部>

1. 研究企画委員会

日時: 2001年8月25日(土)
場所: 関西大学(岩崎記念館2階会議室)
議題: 2001年度秋季大会について次のこ
とを話し合った
ワークショップ: 教材開発研究会が担当(2)
研究発表者選考(3) 講演: 河上誓作先生(大
阪大学)(4) 大会テーマ(5) 役割分担(6)
会場(7) プログラム(8) その他

2. 今後の予定

1) 関西支部秋季大会

日時: 2001年10月13日
場所: 京都府立大学
内容: ワークショップ(教材開発研究会)
個人発表
講演「アイロニーの統合理論に向けて」
河上誓作先生

2) 京都セミナー

日時: 2001年11月17日、18日
場所: 国立京都国際会館

テーマ: 文学の言語

招聘教授: M. Short 先生(ランカスター大学)
(東眞須美・神戸芸術工科大学
時岡ゆかり・大阪産業大学)

UP-COMING SEMINAR IN KYOTO

(English)

JACET Kyoto Seminar 2001

'The Language of Literature'

Sponsored by JACET Kansai Chapter

Scheduled on

November 17, Sat. 13:00 - 19:20

November 18, Sun. 10:00 - 17:00

At 国立京都国際会館(市営地下鉄国際会館下
車) [Kokuritsu Kyoto Kokusai Kaikan:
Subway, get off at Kokusaikaikan]

11/17: **Main Speaker:** Mick Short
(University of Lancaster, UK) 'Analysing
the Language of Literature', **Presentations:**
Yoshifumi Saito (University of Tokyo)
'Diachronic Analysis of Narrative
Discourse'; Noriko Inoue (University of
Bristol, UK) 'The Style and Metre of
Middle English Alliterative Poetry';
Masanori Toyota (Kansai-gaidai
University) 'Conversation in Prose Fiction';
Reception

11/18: **Main Speaker:** Mick Short 'Corpus
Stylistics: Speech, Thought and Writing
Presentation' **Presentations** : Akira
Kawabata (Ashiya University) 'Literary
Text as an Educational Foundation';
Nozomi Hayashi (Kyoto University) 'Some
Aspects of the Dialogue in "What Is That
Sound?" by W.H.Auden'; Barbara Hyde
(Ritsumeikan University) 'Stylistics as
Language Awareness :Linking Language
and Literature';
Panel Discussion: 'Language, Literature
and Education'
Participants: limited to 60 (in the order of

arrival)

Fee:

JACET members & students ¥10,000
Others ¥13,000 including reception
豊田研究室 (TEL 072-856-1721 内線 620)
(Kansai Gaikokugo Daigaku)
(Pr. Masanori Toyota)

月例研究会報告

1. 「SLA 研究と外国語教育」

昨年 1 1 月に『SLA 研究と外国語教育—文献紹介』を刊行した JACET SLA 研究会が、去る 4 月 2 8 日 (土) 東京電機大学において、SLA 研究の領域における動向を中心に講演を行った。

まず、金子朝子 (昭和女子大) が「SLA 研究の概観」と題して、ますます多様性を増している SLA 研究の領域を概説すると共に、最近の動向を述べ、研究への示唆を与えた。次に、足利俊彦 (立教大) が「SLA 研究における社会言語学の位置付け—語用論を中心として」と題して、言語の習得には、語用論的知識も不可欠であることと、そのための指導のあり方を

提唱した。続いて、佐野富士子 (駿河台大) が「SLA 研究と外国語教育との融合」を取り上げ、外国語の教員にとっての SLA 研究の必要性と、研究成果の応用としての外国語教育のあり方を論じた。最後に齋藤英敏 (北星学園大) が「SLA 研究のためのリサーチ」と題し、外国語教育に生かすリサーチの方法論の数々を紹介し、それぞれの特徴と利用法を説明した。質疑応答の時間には、効果的な外国語教育のあり方を模索する参加者の熱意にあふれた活発な意見交換がなされた。その後、研究会が刊行した本が紹介された。なお、この本については、スクールブックサービス (Tel: 03-3200-8281)、リーベル出版 (Tel: 03-3234-1368)、または研究会事務局の奥田祥子 (大東文化大 Email:

sokuda@ic.daito.ac.jp) で注文または質問に応じている。

(文責 佐野富士子: 駿河台大)

2. 月例研究会 2001年5月19日
今回は JACET Critical Thinking SIG による発表であり、二部構成となっていた。前半は、垂細垂大学のオコーナー先生の“Critical Thinking as Propaganda Analysis”というタイトルの講演であり、後半は竹前文夫先生 (桜美林大学)、鈴木健先生 (津田塾大学)、富田祐一先生 (大東文化大学) によるクリティカル・シンキング教育に関するシンポジウムであった。

・ 講演: Professor William F. O'Connor of Asia University delivered a lecture entitled “Critical Thinking as Propaganda Analysis.” Professor O'Connor delimited his treatment to American propaganda generated during three twentieth-century crises- World War II, the Persian Gulf War, and Kosovo. The following propaganda-related aspects of the aforementioned conflicts were examined: (1) the MGM movie *Mrs. Miniver*, a propaganda vehicle in the guise of entertainment (WWII); (2) the formidable role of the public relations firm Hill & Knowlton (Gulf War); and (3) CNN's use in news production of interns from the U.S. Army's Third Psychological Operations Battalion (Kosovo).

Given the sophisticated nature of some propaganda campaigns, Professor O'Connor suggested that teachers should encourage their students to consider the following questions before responding to any message of significance:

1. Who has produced this advertisement, movie, TV show, article, etc.?

2. How does this person or organization want me to respond to this message?
3. What does this person or organization stand to gain if I react in the intended fashion?
4. What do I stand to *lose* if I respond in the intended fashion?
5. [In the case of newspaper articles] Why has this article been given prominence (e.g., front page, above the fold)? Or, conversely, why has this article been placed on a back page?

・シンポジウム：

まず竹前先生から「日本におけるクリティカル・シンキング教育」というタイトルでお話を頂いた。基本的な概念の説明として、「思考」、「論理的思考」、「批判的思考」などの定義の説明があった。次に、日本における思想風土の説明や日本での思考教育の実践例が紹介された。最後に英語教育と思考力養成という点から、考えながら批判的に読むことの重要性や「教育ディベート」などを日本の学生に教えてゆくことの大切さが説明された。ただ単に白黒をつけたり、相手をやり込めるための討論ではなく、妥協点を導ける討論を教えたい、そのためにクリティカル・シンキングを教室に導入していきたい、と提案があった。この分野での詳細な参考文献の紹介もあった。

次に鈴木先生からクリティカル・シンキングについて基本的な説明があった。アメリカではクリティカル・シンキング教育が70年代から盛んになり、現在これを必修科目としている大学が少なくない、また、日本でも90年代から注目されるようになった、等クリティカル・シンキング教育のこれまでの経緯が概観された。そして、日本においても、クリティカル・シンキングに基づいた態度 (attitude) の育成が大事である旨、提案され

た。

最後に、富田先生から「異文化理解教育とクリティカル・シンキング」というタイトルのもと、Critical Cultural Awareness 育成が重要であるというお話があった。Critical Cultural Awareness (CCA) とは、多様な文化に直面した際に、(1) 偏見を持たずにその実体を理解しようとする態度、(2) 正確で豊富な知識、(3) 情報を的確に収集・交換する技能、の3つの要素を活用する事によって、(多様な文化に関する)論理的で、体系的で、主体的思考ができる事であると、説明された。講演者による大学生を対象としたCCA測定の予備調査の結果も紹介され、CCAを獲得することの難しさが報告された。さらに、CCA育成のための学校教育やメディアの役割を注目すべきであると提案された。ことに、2002年度から始まる「総合的な学習の時間」等で実施される「国際理解教育」や中学や高校で行われている「外国語教育」等が、CCAに対してどのような影響を与えていくか、注目されるという話で、講演が締めくくられた。

以上の講演のあと、フロアとともに意見交換がされた。非常に活発な質疑応答、意見交換があり、大変充実した研究会となった。

(文責：大井恭子)

3. 月例研究会 2001年6月30日 「指示語研究の現在と展望—動的解釈の動きの中で—」 菅沼文子

指示語は現在知られるあらゆる言語に存在するといわれる。よって指示語研究の大きな目標の一つは、指示語使用における普遍性と個別性の解明であると考えられる。このような立場から、本発表ではまず1990年代以降を中心に指示語研究を概観した。そして最近の指示語研究の特徴として、指示語を話し手中心に取り巻くコンテキスト内の指示対象を指すものとして取り扱う「静的分析」から、指示語とコンテキストを相互作用的に関わり合うものと捉える「動的解釈」への流れが見られることを指摘した。

次に、そのような流れの中で、普遍性と個別性の解明に向けての第一歩として、特に日本語と英語の比較対照研究について触れた。先行研究を詳しく検討し、「縄張り」によって比較してきた従来の研究に対して、近年それとは別次元の要素の関わり合いが示唆されてきている点に注目した。具体的には、先行研究において、日本語における「接触」という要素の重要性や、日本語では同一の指示物に同一の指示語を繰り返し使えるのに対して英語では普通二度目以降は代名詞を使用するという違いが見られることなどが指摘されている。これらの点から今後両言語の指示語を比較対照して特徴づけるには、「指示語を含む談話がどの程度コンテキストに依存しているか」という見方からの分析が有効ではないかと考えた。

そこで、本発表では日英語に関する指示語使用のモデルを提案した。そこでは、日本語では談話とコンテキストの依存度が英語と比べて高いという特徴があること、さらに前者では話し手がコンテキストの中に埋め込まれた視点から出来事を捉えるのに対し、後者ではコンテキストから離れた視点から出来事全体を捉えるという特徴があることを図示し、このモデルにより先行研究で指摘されている両言語の指示語使用の違いを説明した。

さらにそのモデルを利用しつつ、日本語指示語分析における「動的解釈」の導入の有効性を主張した。これにより、日本語談話で多用される指示語の非指示的機能（例えば話し手や聞き手の会話参加状況を変化させるなど）のより一層明解な説明が可能になることを述べた。最後に、この非指示的側面の分析を通して、指示語使用の普遍性と個別性の究明に向けて日本語からの貢献の可能性を示した。

4. 2001年 後期月例研究会 予定
会員の皆様の参加をお待ちしています。ぜひ、ご参加下さい。(J A C E T研究・講演委員会)
1) 10月6日(土) 14:30-17:00

東京電機大学 7号館 7401
Joseph Benson (東海大学)
"Flexible Teaching through Computers"
Joan McConnell (Text writer)
"World English and English Education
for the 21st Century"

2) 10月27日(土) 14:30-17:00

東京電機大学 7号館 7401

特別講演

Ronald Wardhaugh

(前 Toronto University)

"Is there an applied sociolinguistics?"

3) 11月17日(土) 16:00-18:00

早稲田大学 16号館 大会議室

永田博人(日本大学)

「大学入試問題の質的分析-読解問題を中心として-」

浜岡美郎(早稲田大学非常勤)

4) 12月8日(土) 14:30-16:30

東京電機大学 11号館 1702

特別講演

Rod Ellis (昭和女子大学)

"Task-based Language Teaching and Learning-A Sociocultural Perspective"

5) 1月26日(土) 14:30-17:00

東京電機大学 7号館 7401 (予定)

投野由起夫(明海大学)

「英語学習者コーパス研究の最新動向」

青木恵 (ランカスター大学院)

「学習者コーパスを用いた日本人英語学習者の名詞句発達過程の分析」

学会案内

1. CALL FOR PAPERS

1) THE APPLIED LINGUISTICS
ASSOCIATION OF KOREA

- 2001 WINTER CONFERENCE-

Place: SK Hall, Seoul National University, Seoul, Korea

Time: December 8, 2001

Theme: "Interface between Linguistics and Language Education"

Keynote Speaker: Peter Skehan (King's College, London)

Plenary Speaker: Anne Pauwels (The Univ. of Western Australia, President of ALAA (Applied Linguistics Association of Australia) & others

Abstracts are solicited for 30-minute presentations (20-minute talk and 10-minute discussion) in all areas of applied linguistics. The title of the presentation paper should be sent to the address below by October 20, 2001, and the abstract (within 500 words) by October 25, 2001. When submitting your abstract, please include the following information: name, affiliation, mailing address, phone numbers, and e-mail address.

*E-mail submission (with a WORD or Hangul 3.0 file attachment) is preferred.

Contact: Prof. Chang-Bong Lee, Conference Chair, The Department of English Language and Culture

The Catholic University of Korea
San 43-1 Yonkok 2 Dong, Wonmi Gu
Puchon, Kyunggi Do Korea, 420-743
cblee@songsim.cuk.ac.kr

2) AILA2002 Singapore

The new AILA2002 deadline for abstract submission is 31st December 2001.

Only those whose abstracts were submitted by the 31st August 2001 deadline will, upon notification of acceptance of their abstracts, enjoy the privilege of early bird registration.

(Anne Fretheim AILA Secretariat)

NB: All JACET members can registrate as (AILA affiliate) JAAL in JACET members (reduced price).

2. OTHER CONFERENCEES

1) The 36th IATEFL Annual Conference will be held in York, in the north of England. This will run from Sunday 24th to Wednesday 27th March 2002, with Pre-Conference Events and the Associates Day being held on Sunday 23rd.

(国際交流委員会 矢野安剛 早稲田大学)

Main articles in this issue

Foreword (Masanori Toyota)	1
Report from JACET office	2
Chapter News	3
Monthly meeting report	7
Conference News	9

編集：広報通信委員

(担当理事：田中慎也、委員長：加藤忠明)

9月末号が大変遅れまして申し訳ございません。執筆頂いた諸先生方には、ご多忙中、時間を割いて頂きありがとうございました。

(9月号編集担当：加藤忠明、渡邊容子)

2001年10月11日発行

発行者 大学英語教育学会 (JACET)

代表者 田辺 洋二

発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町 55

電話 03-3268-9686

FAX 03-3268-9695

<http://www.jacet.org/>

印刷所 〒228-0021 座間市緑ヶ丘 3-46-12

有限会社 タナカ企画

電話 046-251-5775
